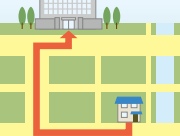


● 逃げるときに 知っておくこと

災害が 起こったときのために ふだんから 逃げるときに 必要なものを 用意して どのように 逃げるか 話し合ってください。
また 危ないと 思ったときは 情報を 確かめて 急いで 逃げて ください。

 あぶ 危ないときは すぐに 逃げて ください かんせん 感染する びょうき 病気に ならないために、あんぜん 安全な いうじん 友人の いえ 家に 逃げることも 考えて ください。周りが 危ないときは すぐに 避難所に 逃げて ください。	 いえ 家にいない 家族のために 連絡メモを 書いて ください 「ここに 逃げます」といった メモを いえ 家に 残してください。
 じゅうしやう なまえ れんらくさき でんわばんごう 住所、名前、連絡先(電話番号など)を 書いた メモを 持って ください とく 特に お年寄りや 子どもは メモを 用意しておいて それを 持って 逃げて ください。	 みんなで 助け合ってください ひとり 1人では いけないで みんなと 一緒に 決められたところに 逃げて ください。
 くるま 車では 逃げないで ください くるま 車は だいたい30cmくらいの みず 水が あると 走れなくなります。車では 逃げないで ください。	 できるだけ 安全な 道を 歩いて 逃げて ください かわ 川の近く、地下の道は 通らないで できるだけ 安全な 広い道を 通って ください。
 ペットと 一緒に 逃げて ください。 ペットの にげるところは 避難所の 外です。避難所の中 に ペットを 入れることは できません。	 ひなんばしよ 避難場所(逃げるところ)などでは 係の人の 言うことを 聞いて ください ひなんばしよ 避難所に 着いたら、中に 入る前に 住んでいるところや 名前、今、体の様子や 体温を 伝えましょう。
 に 逃げる とき も 持っていく もの、すぐに 持っていける ところに おきましょう に 逃げる とき も 持っていく もの は リュックサック(背中で もつ かばん)に入れて りょうて 両手をつか 使えるようにして すぐに も 持っていける ところに おきましょう。 かんせん 感染する びょうき 病気に ならないために マスク、アルコール消毒液、体温計、携帯トイレ(トイレが つか つかないときに 必要)を持っていきましょう。	

● 洪水のときの 逃げかた

夜に 逃げるときは 周りを 目で見 確かめることが できません。気をつけて ください。

 ● 歩ける 深さは だいたい50cm。 水の深さが 腰まで あるようなら 無理に 逃げようと しないで ください。すぐに 高いところに 逃げて ください。	 ● 水の下には 何があるか 分からないので 長い棒を 杖の代わりして 安全を 確かめながら 歩いて ください。	 ● 裸足、長靴では 逃げないで ください。長靴は 脱げやすいので 危ないです。ひもで 結べる 運動靴が よいです。	 ● 離れないように お互いの体を ロープ(ひも)で 結んで 逃げて ください。特に 子どもは遠くに 行かないように 気をつけて 見ていて ください。	 ● お年寄りや 体が不自由な人などは 背負ってください。子供は 浮き輪などを 使って安全を 確かめながら 逃げて ください。
--	--	--	---	---

● 水平避難と 垂直避難

災害のときは 急いで 逃げるのが たいせつです。しかし 逃げる道に もう 水が来ていて 危ないと思うときは 無理に逃げようと しないで ください。そのときは 避難場所(逃げる ところ)に 行かないで 近くの 高い建物など 高いところに 行くことも たいせつです。



みず 水が たくさん 来ていても たてもの 建物が 壊れないだろうと 思うときは 近くの建物の 高いところや 家の2階など 高いところに しばらく いて 助けを 待つことも 考えて ください。

避難行動要支援者

避難行動要支援者とは 災害が 起こったときに 1人で 逃げるのが できない人です。普通は お年寄りや 障がいがある人の ことで す。みんなで 助け合って 近くの お年寄りや 障がいがある人などの 安全を 確かめて 避難場所(逃げる場所)に 行くのを 助けて ください。



お年寄り・病気の人

- 背負って 安全な ところまで 逃げて ください。
- 2人か それよりも たくさんの人で 助けてあげて ください。



目が不自由な人

- 声をかけて 情報を 伝えます。
- 杖を持っている手には 触らないで ひじのあたりを 軽く持ってもらい 少し先を ゆっくり 歩いて ください。



体が不自由な人

- 階段では 2人か それよりも たくさんの方が 必要です。上に行くときは 前向き、下に行くときは 後ろ向きで 運んで ください。
- 助ける人が 1人しか いないときは ひもなどを 用意して 背負って 逃げて ください。

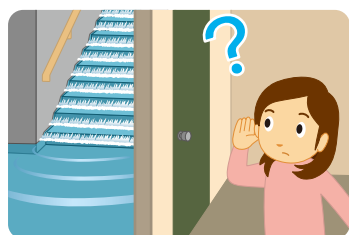


耳が不自由な人

- 話すときは 口を 大きく開けて 相手に 分かりやすいようにして ください。
- 紙に 書いたり 手などを 動かして 正しい情報を 伝えて ください。

大雨・洪水のときの 地下は 危ない

大雨や 洪水のときの 地下(1階の下)は 危ないです。地下は 地上(1階)と 水の来る 速さが 違うので すぐに 水が 来たり 電気が とまります。急いで 逃げて ください。



地下にいますと 外のことが 分かりません。



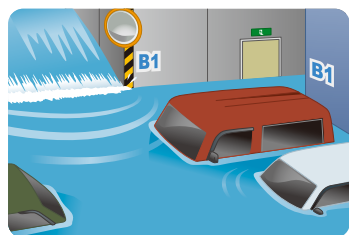
水の深さが 20~30cmでも 水の重さで ドアは 開かなく なります。



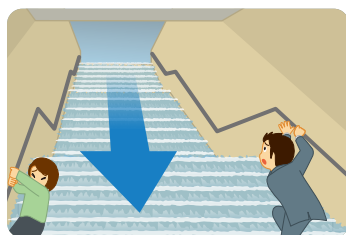
地上に 水が来ると 水が 急に 流れてきます。



水が来ると 電気が消えて エレベーターは 止まります。



地下の駐車場は 水につかるかも しれません。



川などからあふれた水が 地下に 流れてくる と階段から 逃げるのが できなくなります。

大雨・洪水のときは アンダーパスに 気をつけてください

道路や 鉄道などが 違う高さで 交差するときに その下を通る 地下の道を “アンダーパス”といます。大雨・洪水のときは アンダーパスは 最初に 水につかる ところです。



もしも 逃げないと

災害のときに もしも 逃げないことを 選んでしまうと 次のようなことが 起こるかも…

水が 長い時間 なくなるときは…

- 水が深いときは 家の外に 出ることが できなくなります。
- 用意していても 水や食料が なくなります。
- 周りが 清潔でなくなり 病気になることが あります。
- 病気の人を 助けることが 難しくなります。
- 決まったときに 病院に 行かないといけな人が 病院に 行けなく なります。

電気・ガス・水道が 止まると…

- 電気がとまると テレビなどから 情報が 見られなくなります。
- 水、ガス、電気、電話などが 止まると 生活するのが たいへんになります。

建物の 高いところでは…

- エレベーターが 止まると 階段を 通らないと いけないので どこかに 行くことなどが たいへんになります。
- 水・食べものなどを 低いところから 運ぶのが 難しくなります。
- 病気の人がいると 階段を 歩いていくのは たいへんです。

外と 連絡できないときは…

- 病気になると 助けてもらえなくなります。
- 情報がないと 心配になります。